

(別記様式)

令和6年度 京都府立朱雀高等学校 通信制課程 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）		
1 生涯学習と社会的自立の基盤となる基礎学力を身に付け、社会に主体的・自律的に参画できる心豊かでたくましい人間の育成を目指す。		1 多様な学習履歴を有する生徒が在籍している現状を鑑み、学習支援、連絡等の効率化等についての実施方法について検討した。	1 ICT機器を活用した効果的指導方法の具体化について研究し、生徒の自学自習が一層進むよう、学習支援の在り方を研究する。		
2 生徒の期待に応え、生徒の多様性が尊重される学校体制を作るとともに、生徒自身が将来に展望をもち、学び続けられる「生徒本位」の学校づくりに取り組む。		2 生徒の単位修得と卒業に向けて、教職員全体で、指導方法の改善に努めた。	2 卒業者数、単位修得者数の増加を目指し、従来の指導方法等を検討、再構築する。		
		3 教職員全体で特別支援教育に係る理解を一層深め、生徒の実態を把握し、学習に係るUD化を進めた。教職員の一層の理解深化を図る必要がある。	3 様々な支援が必要な生徒の学習が円滑に進むよう教職員の理解を一層深めカウンセリングマインドを基盤にした対応能力の向上をはかる。様々な機会を通じて、関係機関との連携、HPやパンフレットの充実、説明会等で通信制課程の広報に努める。		

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題		
1 組織・運営	・学校経営方針に即した組織や体制を整え、学習指導の充実・改善に努める。	・学校経営計画に基づき、分掌・担任・教科が一体となって、具体的な取組を実施することで、教育活動の充実に努める。	B	A	・学習進度の目安を生徒に提示、加えてレポート提出の一次締切を初めて設定した結果、レポート提出数が大幅に増加したが、生徒の学習進度の掌握について教科担当者と担任間の連携に課題が見られた。 ・ホームページでの各種案内、連絡等の掲載時期・内容を改善した結果、個別の電話問い合わせ等が減少した。 ・4回実施した学校説明会は過去最多の参加者数となった。
	・通信制課程の特色を外部に発信するための広報活動拡充を図る。	・ホームページの刷新、充実と利用促進を図るとともに、様々な機会を使って広報を充実する。	A		
	・部長会の開催回数を増やし、通信制の課題や今後の在り方・方向性を検討する。	・生徒の自学自習が一層進むよう、本校のシステムの課題を検討し、具体的な方策を教員全体で協議する。	A		
2 教育課程の編成と実施	・通信制・単位制の特色を生かし、多様な生徒の興味・関心・進路希望に応じた選択科目を設置し、個々の生徒の学力伸張を図る。	・基礎力の充実に主眼を置いた科目と特色ある科目をバランスよく設置し、生徒の希望・要望に応える。学び直し科目の設置を研究する。	B	B	・多様な学修履歴のある生徒が順調に学習が進むよう必修科目の修得を第一に据えながら、学校設定科目も新たに設置し、選択科目（天気と気象）を設置することができた。 ・新しい教育課程が完成した次年度以降も選択科目の新設を可能な範囲で検討したい。
	・多様な学習履歴を持つ転編再入学生徒の学習が円滑に進むような教育課程の編成を進める。	・特色有る教育課程の編成を前提に、本人の能力適性を見極め、生徒自身が適切な受講科目登録ができるよう指導する。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題		
3 学習指導	・生徒が自学自習できる力を高めることを支援し、基礎学力の定着に向けた取り組みを。	・スクーリング、レポート、テストについて、生徒が年間を通じて自主的・計画的かつ継続的に学習できるよう指導し、基礎学力の定着を図る。	A	A	・本年度は「学習ガイド」にレポートの標準提出時期を追加するなど継続的な改善に加え、学習の進め方に関する動画をホームページに掲載し、生徒がより主体的、計画的に学習に取り組むことができるように指導した。 ・レポートの提出時期の変更内容を「朱雀だより」等でも丁寧に生徒への周知を図った。次年度以降も生徒が学習を計画的に進められる指導の工夫に努める。
	・個々に応じた適切な指導とわかりやすい教材作成に努める。 ・レポートやスクーリング内容充実すすめる。	・「学習ガイド」が生徒の理解を促進する内容になるよう継続的に工夫改善する。 ・ユニバーサルデザインを意識したレポートやテスト作りを学校全体で共有しながら取り組む。	B		
4 生徒指導	・様々な年齢層の生徒、支援を必要とする生徒、仕事や家庭と学習の両立を図る生徒など、多様な生徒の学校生活が充実するように援助する。	・よりよい学習環境づくりを推進するため、全教職員で登下校時に校門立哨指導を実施する。 ・全教職員で放課後の校舎内外の清掃等を、全てのスクーリング日・テスト日で実施する。	A	A	・スクーリング日やテスト日には校内及び学校周辺の巡回および清掃を計画的に実施し、良好で落ち着いた学習環境を維持することができた
5 特別活動	・生徒会活動や学校行事、部活動、人権学習などを通して、相互交流を促し、生徒が学校生活に慣れ親しみ、積極的に学習に取り組める環境となるよう指導、支援する。	・生徒会活動においては、行事の企画・運営等について生徒が協力しながら自主的に企画・運営できる能力を育成する。 ・部活動においては、健康面と安全面に十分配慮しつつ、共通の興味や関心に基づく活動が継続できるよう支援する。 ・特別活動を通じて、生徒の自主性・自立性を高め、互いを尊重する態度を涵養することで、生徒が充実した学校生活を送れるよう、指導・援助する。	B	B	・生徒会行事においては執行部を中心に、生徒が自主的・主体的に企画、計画し活動できるように援助した。特に文化祭では生徒会主催のキッチンカーやビンゴ大会やスタンプラリーなど参加型企画を開催し好評であった。 ・部・同好会活動は、登録者が増え、活気づいてきており今後も豊かな学校生活を送る一助になるように活動を支援していきたい。
6 人権教育	・生徒一人ひとりの人権意識を高め、自他を個人として尊重する姿勢や態度を育成する。	・身近な人権問題を中心テーマに設定した学習会を実施し、一人ひとりの尊厳と人権を尊重する教育の推進を図る。	B	B	・昨年度と同じテーマであったが、ドメスティックバイオレンスを異なった視点から捉えられるように講演を依頼した。事例を基にしたわかりやすい内容で、アンケート結果から、多くの生徒がDVに関する認識を深めることができた。

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題		
7 進路指導	・個々の生徒の進路希望・適性・学力を的確に把握し、ホームルームと うの 様々な機会を通して進路情報を提供すめとともに、生徒の進路保障に努める。	・就職説明会や就職セミナーを開催し、生徒の希望進路の実現と社会的自立を支援する。 ・ハローワーク及び京都自立就労サポートセンターとの連携を通じて、就職指導の一層の充実を図る。	B	B	・5月には進路HR、進学説明会、就職説明会、11月には進路学習会を実施した。 ・就職セミナーは外部講師を招いて、施し、外部機関と連携を図った。 ・自学自習用のオンラインツールを幹旋し、利活用を促した。 ・「朱雀だより」や「進路ガイド」、校内掲示を通じて進路意識の啓発に努めた。 ・就職希望者については年度末まで粘り強く、応募の指導を続けることができた。
		・進学説明会を実施し、進学希望者の進路実現を支援する。進学に向けた自学自習のためのオンラインツールの幹旋と利活用を奨励する。	A		
	・生徒が自ら進路を考え、望ましい職業観・勤労観を身につけながら、進路実現に向けて、主体的に取り組む姿勢を涵養する。	・学年部と緊密に連携して、個別相談・個別指導を充実させる。 ・「朱雀だより」、「進路だより」等を通じて、生徒の進路意識の向上を図る。	B		
8 健康 安全教育	・心身の健康を生徒が自ら管理できるように支援する。	・配慮や特別な支援が必要な生徒の実態把握に努め、必要な支援を実施するため、教職員の共通理解を進める。支援体制のあり方を具現化する。	B	B	・外部機関とも連携をしながら、校内研修会や職員会議での情報交換をとおして特別な配慮や支援を必要とする生徒の実態把握に努め、必要に応じて校内員会、職員会議で検討し依頼した。 ・「朱雀だより」や各種掲示等を通じて、美化環境衛生・健康安全に対する啓発を行った。 ・薬物乱用防止に関する啓発・指導については、夏季休業前の7月に薬物乱用防止学習会を実施した。
		・特別活動や「保健だより」の発行を通じて、生徒自らの健康自己管理能力の増進を図るとともに心身の健康の保持と増進の啓発に努める。	B		
		・薬物乱用の防止学習会を早期に実施し、生徒が薬物の害毒を身近な問題と捉えるとともに、誘惑に負けない対処法を身につけるよう指導する。	B		
9 安全管理	・健康で安全な学習環境づくりを全教職員が一致して推進する。	・定期環境衛生検査の実施、校内安全点検・環境衛生点検等を随時実施し、環境美化と安全な学習環境づくりに努める。	B	A	・各種検査・点検を定期的に実施し、環境の改善に努めた。 ・ホームルームの時間を利用して、清掃美化活動を行った。その際保健室に必要な備品を整備した。 ・健康診断の受診率を高めるため、日程の工夫や啓発を行った。生徒の健康状況を教職員で情報共有するための研修会を実施した。 ・カウンセリングが利用しやすいよう、スクールカウンセラーによる健康学習会を実施した。 ・危機管理マニュアルを教職員間で共有し、生徒対象に防災に係る学習会を教員対象に防災研修会を実施した。
		・生徒の心身の健康状況を適確に把握し、心身の健康増進に努める。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を強化する。	A		
		・危機管理体制（不審者対策、防火・防災管理）の確立を図るとともに、研修会を通じて教職員の意識高揚と実践的対応力を身につける。	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題		
10 研修	・各種研修会を通じて、教職員の資質を高めるとともに、教育活動に活かすことのできる実践的な研修内容を検討する。 ・通信制課程の課題を明らかにし、課題解決に資する研修を企画する。 ・他府県の通信制高校の情報を収集し、本校の学習システムの改善につながる研修を実施する。	・各分掌が企画する教職員研修会を企画し、その実施・運営・充実に努める。 ・三課程合同で研修会を企画・開催する。	A	A	・エビペン使用の生徒が8月に転入学したため、器具を使用して研修会を実施した。 ・三課程合同で教職員人権研修会を実施した。今年度は若手教職員によるフィールドワークも実施した。 ・スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)を講師とした研修会を実施した。 ・全国・近畿の通信制教育研究会主催の各種研修会に参加し、教職員が新たな知見を得た。
		・特別支援教育校内委員会等を通じて、課題のみられる生徒の理解を進め、適切な支援方法等を協議・実践する。	B		
		・全国、近畿の通信制研究会の研修会や全国大会等に参加し、通信制課程の教育の在り方について理解を深める。	A		
11 情報・文書管理	・校内ネットワークの維持管理に努める。 ・情報発信の基本となるホームページの改善、充実に努める。	・職員間での情報共有を進めるための効果的なネットワーク活用やI C T機器活用について研究する。	A	A	・職員間の情報共有を円滑化するためのグループウェアを導入することができた。 ・ICTの利活用に係る会議を立ち上げるとともに、生徒も活用できるグループウェアの導入を検討した。
		・他校事例も参考にしながら通信制課程におけるI C T機器の効果的活用法を研究する。	A		
12 家庭・関係機関との連携	・積極的な情報発信による開かれた学校づくりを推進する。	・「朱雀だより」の発行やホームページの更新を通じて情報発信・家庭への広報を推進する。	A	B	・HPに学習システムに関する動画を掲載し、在校生以外にも広く一般に公開した。学校説明会でも活用した。 ・平素から関係機関との連携を密にして、生徒が学習環境を充実させることができるよう、生徒・保護者ともに支援をしたい。
		・福祉関係機関や児童相談所等の関係機関と連携し、生徒が卒業に向けて積極的に学習活動に集中できるよう支援する。	B		
		・保護者の意見や教育活動の中で指摘のあった事項を受け止め教育活動の改善・充実に努める。	B		

学校運営協議会・評価委員会による評価	三課程が、それぞれの特色をもつ朱雀高校の教育活動は評価できる。それぞれの課程の利点を生かしながら、各課程の特色を広く発信してほしい。また併置の特色を生かして他課程との接点をもつなど、多様な価値観の中で、選択肢の一つとなるようになることを期待している。通信制については、柔軟な学習システムを活用して、今後とも多様な生徒の学習機会を保障してほしい。
--------------------	--

次年度に向けた改善の方向性	通信制課程での学びを志望する生徒が徐々に増加している。さまざまな学習歴・年齢層の生徒を受け入れている現状と多様なライフスタイルと学習を両立したい生徒の傾向を分析しながら、学習システムを中心に不断の改革を進めながら、一層開かれた学校づくりを目指していきたい。
---------------	--

A：十分に達成できている	B：ほぼ達成できている	C：達成できているとはいえない	D：ほとんど達成できていない
--------------	-------------	-----------------	----------------